

すべての豚は美しい

～豚の登場する児童書～

清潔で頭がいい、という実像にも関わらず、「豚小屋」「豚箱」「豚児」など豚の評判はかんばしくありません。その親しみやすい外見から、あまりいいイメージが持たれていないのです。しかし、子どもたちも、児童文学の作家・挿絵画家たちもずっと前から豚の実像と魅力に気付いていました。そうでなかったら、これだけたくさんの児童文学の作家や挿絵画家が豚を主人公にして描き、またその作品が子どもたちに愛されているわけがありません。

豚について

- 1) Pig(豚) / [written and edited by Mary Ling] ; photographed by Bill Ling. New York DK pub. 1993. 当館請求記号 (Y11-A86)
(出版国 アメリカ) いろいろな動物が「どのように大きくなるか」シリーズの中の1冊です。この豚たちを見ていたら、誰もが「なんて可愛いんだ！」というに違いありません。
 - 2) All pigs are beautiful (すべての豚は美しい) / written by Dick King-Smith ; illustrated by Anita Jeram. London : Walker Books, 1995, c1993. 当館請求記号 (Y11-A176)
(出版国 イギリス) 「豚が好き」「どんな豚も好き」という著者が豚について説明しています。本展示の名前はこの本から取りました。
 - 3) Le grand livre du cochon (豚大読本) / Claire Fay. [Bruxelles] : Casterman, c2004. 当館請求記号 (Y17-B6078)
(出版国 ベルギー) 「豚はやさしく感情こまやかな生き物」から始まって豚の全般を薔薇色の絵で説明しています。
 - 4) Les sciences naturelles de Tatsu Nagata. Le cochon (ナガタ・タツの自然科学) [Paris] : Seuil jeunesse, c2007. 当館請求記号 (Y18-B334)
(出版国 フランス) 「豚のすべてはすばらしい、特にハム」というやや人間本位の勝手さがありますが、落ち着いた穏やかな絵で豚について説明しています。
 - 5) Piggies (子豚たち) / written by Don and Audrey Wood ; illustrated by Don Wood. San Diego : Harcourt Brace & Co., c1991. 当館請求記号 (Y17-A1662)
(出版国 アメリカ) さまざまな豚が指の上に登場する赤ちゃん絵本です。静かに豚の魅力を楽しみたい方に最適な絵本と言えましょう。
 - 6) Ben Gué dessine comme 1 cochon (ベネティクト・ゲチエ、一匹の豚のように描く) / Bénédicte Guettier. [Paris] : Gallimard jeunesse/Giboulées, c2000. 当館請求記号 (Y17-B6337)
(出版国 フランス) 表紙はまぎれもなく豚とされます。奔放な線で描かれた白黒の絵本です。子ども向けの絵本なのか大人向けの絵本なのか、何が描かれているのか・・・読者が自分で判断するほかない本です。
- ### 豚がちょっと出てきます
- 7) Wie im Bilderbuch (絵本のなかのように) / Nikolaus Heidelberg ; mit einem Vorwort von Andreas Platthaus. Zurich Kein & Aber c2006. 当館請求記号 (YZ726.6H-B9)
(出版国 ドイツ) 豚の本ではなく挿絵画集です。表紙に見られる豚の迫力をご覧ください。
 - 8) Het grote knuffel-boek (おおきな抱っこの本) / Guido van Genechten. Hasselt ; Amsterdam : Clavis, 2007. 当館請求記号 (Y17-B9461)
(出版国 オランダ) お母さんが赤ちゃんを抱きしめる動物のお母さんとその子どもを描いた赤ちゃん絵本です。豚が表紙に登場しています。

9) Nebyval'shchina : detskie narodnye pesenki (有り得な話 : わらべ歌) / sobral i obrabotal Kornei Chukovskii ; risunki IU.A. Vasnefsova. Moskva "Sov. Rossiia"1976. 当館請求記号 (Y17-B1286)
(出版国 ロシア) 動物、虹、火事、ゆりかごなどについてのわらべ歌集です。標題になった歌は「熊が空飛ぶ、しっぽを巻いて。豚がえぞ松、巣をつくる、子豚を育てて、枝にぶらさげる、枝の子豚は飛びたがる」という意味の歌です。まさに有り得ないおはなしです。

豚で理解 豚たちが体を張って文字や数字を説明しています。

10) Pigs from A to Z (こぶたの ABC) / Arthur Geisert. Boston Houghton Mifflin c1986. 当館請求記号 (Y17-A6296)
(出版国 アメリカ) 豚の登場する風景のなかに ABC が隠されています。(日本語訳『こぶたの ABC』当館請求記号 Y18-4981)

11) Roman numerals I to MM = Numerabilia romana uno ad duo mila : liber de difficillimo computando numerum (ローマ数字 1 ~ 2000 まで) / Arthur Geisert. Boston Houghton Mifflin 1996. 当館請求記号 (Y11-A1227)
(出版国 アメリカ) ローマ数字は難しそうですが、この本で勉強すれば本当に簡単に理解できます。

12) One pink pig : a counting book (ピンクの豚が一匹 : 数の本) / written and illustrated by Sandy Nightingale. London : Andersen Press, 1992. 当館請求記号 (Y17-A6979)
(出版国 イギリス) 豚がつぎつぎに増えていく数の本です。最後に豚ピラミッドに挑戦します。

豚が主人公の豚社会

13) Oops (おっと) / Arthur Geisert Boston Houghton Mifflin 2006 当館請求記号 (Y17-B13347)
(出版国 アメリカ) 絵だけの絵本です。川辺に住む豚の一家。きっかけは単にコップをひっくり返して水がこぼれただけでした。しかし、その水が流れて、他のものを動かします。それがさらに連動して大きくなり、最終的には家が壊れてしまいました。でも、一家は無事でした。よかった！

14) Hogwash (ナンセンス) / Arthur Geisert. Boston Houghton Mifflin Co. 2008. 当館請求記号 (Y17- B10646)
(出版国 アメリカ) 子豚たちは遊んで、汚して、大騒ぎ。でも、心配は要りません。子豚たちは整列して、洗われて、干されて、すっかりきれいになります。同じく Arthur Geisert の本です。

15) Un monde de cochons (豚世界) / Mario Ramos. [Bruxelles] Pastel c2005. 当館請求記号 (Y17-B6171)
(出版国 ベルギー) 子豚のファンファンの学校に狼くんが転校してきます。狼くんは学校になかなかなじみません。ファンファンは狼くんと友達になりました。狼くんが学校を休んだ時は狼くんの家にお見舞いに行き、狼くんのお母さんにお菓子をもらったりします。狼一家に食べられてしまった・・・というようなことはありません。狼くんはだんだん学校になじんでみんなとも遊ぶようになりました。

16) Nöff nöff Benny (ぶう、ぶう、ベニー) / Barbro Lindgren, Olof Landström. Stockholm : Rabén & Sjögren, c2007. 当館請求記号 (Y17-B10438)
(出版国 スウェーデン) 子豚のベニーとまだ赤ちゃんの弟の話です。ベニーは弟を連れて外に遊びに出かけます。おかあさんが「弟が池に落ちないように注意してね」と言ったのに、弟は池に落ち、他の子に助けられます。ベニーも池に落ちて助けられました。いろんなところに寄り、家に帰る途中で雨に遭いました。池に落ちたことはおかあさんにはたぶんわからなかったでしょう。

17) 子兒, 吐吐 (種、吐いて) / 李瑾倫文・圖. [臺北] 信誼基金出版社, 1993.7. 当館請求記号 (Y17-AZ3325)
(出版国 台湾) 子豚くんはパイヤの種もすっかり食べてしまいます。他の子豚たちは「死んじゃうかも」などと言います。そのうち「頭から木が生えてくる」と言い出す子豚がいて子豚くんは一時、悲観します。しかし、よく考えたら、そのパイヤは食べられるし、両親は可愛いねと言ってくれるかも。子豚くんはすっかり元気になります。でも、翌日、目がさめても頭に木は生えていませんでした。種はどこにいったのでしょうか？

- 18) Tales of Oliver Pig (豚のオリバーのお話) / Jean Van Leeuwen ; pictures by Arnold Lobel.
New York Dial Press c1979. 当館請求記号 (Y17-B5669)
(出版国 アメリカ) 子豚のオリバーは、両親と妹のアマンダと暮らしています。おかあさんとクッキーを作ったり、アマンダとケンカし仲直りしたりするようなオリバーの日常が描かれています。(日本語訳『こぶたくん』 当館請求記号 Y9-2687) Jean Van Leeuwen は豚のオリバーとアマンダのシリーズを出しています(日本語名「こぶたくんのおはなしシリーズ」)
- 19) I am invited to a party! (パーティーに招かれた!) / by Mo Willems. New York Hyperion Books for Children c2007. 当館請求記号 (Y17-B9705)
(出版国 アメリカ) 初めてパーティーに招かれた小豚ちゃんは、パーティー経験者の象さんと一緒に何を着ていくべきかいろいろ考えます。おそろおそろ出かけたパーティーでしたが、服装は大丈夫でした。「象さんと小豚ちゃん」シリーズの中の1冊です。
- 20) Little Pig is capable (子豚くんはデキる) / Denis Roche. Boston : Houghton Mifflin Co., 2002, c2001. 当館請求記号 (Y17-B2293)
(出版国 アメリカ) 子豚くんの両親は子豚くんが赤ちゃんであるかのようにいろいろなことを心配し干渉します。しかし、ハイキングの時、子豚くんが悪い狼から兄弟を救ったことで、「子豚くんはデキる」と、子豚くんに対する評価と態度は一変します。
- 21) Na warte, sagte Schwarte (ちょっと待ってとシュワルテは言った) / von Helme Heine ; Text zusammen mit Roman Ritter. Köln : G. Middelhauve, c1977. 当館請求記号 (Y19-A468)
(出版国 ドイツ) 今日はシュワルテの結婚式です。出席者のドレスについて忘れていたので、絵具で服を描いて正装してもらいます。結婚式が終わると雨が降り、絵具のドレスを脱ぎ棄てた豚たちはみんな泥につかっくてくつろぎます。
- 22) Jig, Fig, and Mrs. Pig (ジグ、フィグ、そして豚夫人) / written by Peter Hansard ; illustrated by Francesca Martin. London Walker Books 1996 当館請求記号 (Y17-A1597)
(出版国 イギリス) あるところに意地悪で下品な豚夫人、その性格そっくりのその豚息子のフィグ、心優しい召使の豚少女ジグが暮らしていました。ジグがひどい扱いを受けているのはいうまでもありません。ある時、貧乏な老豚を助けたジグは話すたびに口から宝石がこぼれるようになります。フィグも同じようになりたいと真似しますが、失敗し口から蛇を吐き出すようになります。蛇のきらいな豚夫人は逃げ出し、あとを追ったフィグともどもいなくなりジグは二人のいなくなった家で幸せに暮らします。もとの話はペロー童話にあります。
- 23) Piggity-wiggity jiggity jig (ピッグティ・ヴィッグティ・ジグティ・ジグ) / by Diana Neild ; illustrated by Philip Webb. Auckland Scholastic New Zealand 2008. 当館請求記号 (Y17-B10686)
(出版国 ニューージーランド) 「ピッグティ・ヴィッグティ・ジグティ・ジグ」は主人公の子豚の名前です。両親と9人兄妹で暮らしています。ピッグティ・ヴィッグティ・ジグティ・ジグの悩みは自分の長い名前です。不満をいうピッグティ・ヴィッグティ・ジグティ・ジグにお父さんは名前の由来を話してくれます。
- 24) Adam Pig's big book (豚のアダムの大事本) / Selina Young. London : Orion Children's Books, 1996. 当館請求記号 (Y17-A32)
アダムは、小学校入学前の子豚です。妹豚は赤ちゃん豚のリサです。アダムの日常、お気に入りのおもちゃや遊び、お誕生日、水疱瘡体験など、読者であるお母さんも子どももうなずきながら感情移入してしまう本です。
- 25) Piggy and Dad go fishing (子豚くんとお父さん、魚釣りにいく) / David Martin ; illustrated by Frank Remkiewicz. Cambridge, Mass.: Candlewick Press, 2005. 当館請求記号 (Y17-B5922)
(出版国 アメリカ) 子豚くんとお父さんはお弁当と餌を持って魚釣りに行きます。なかなか釣れませんが、やっと釣れました。しかし、子豚くんはなんだか魚がかわいそうになって、そのまま放してやりません。そればかりか持ってきたお弁当の魚たちにあげます。次の日も二人は出かけて行って、ドーナッツを魚たちにあげます。

26) Wiggly Pig's silly big bear (子豚のウィブリーのおバカな熊) / Mick Inkpen. London Hodder Children's 2007. 当館請求記号 (Y17-B8931)
(出版国 イギリス) 子豚のウィブリーは大きなおバカな熊を持っています。おさじも使えないし、腰かけるのも下手。でも、抱きしめられるととても安心なのです。おバカな熊だけどいないと、とても寂しいのです。「ウィブリー」シリーズは子どもに人気で、テレビ番組のシリーズにもなりました。

27) Olivia goes to Venice (オリビア、ベニスに行く) / written and illustrated by Ian Falconer. London : Simon and Schuster, 2010. 当館請求記号 (Y17-B13397)
(出版国 イギリス) 春休み、オリビアの一家はベニスに出かけて観光します。もちろん、イタリアにはイタリア豚がいて、ゴンドラに乗せてくれます。

28) Mr. and Mrs. Pig's evening out (豚さん夫婦の夜のお出かけ) / Mary Rayner. New York Atheneum c1976. 当館請求記号 (Y17-A609)
(出版国 アメリカ) 豚さん夫婦はベビー・シッターに子豚 10 匹を預けて外出します。怪しげなベビー・シッターは実は狼で、子豚を食べようとしています。これに気がついた他の子豚たちは協力して狼を毛布でしっかりくるみます。やがて帰ってきたお父さん豚が狼を川に流して一件落着となります。(日本語訳『オオカミと 10 ぴきの子ブタ』当館請求記号 Y18-M97-11)

豚と他の動物のいる社会

29) Istoriia odnogo porosenka (ある子豚の話) / IUrii Vinnichuk ; khudozhnik Oleg Petrenko-Zanevskii. Moskva : A-BA-BA-GA-LA-MA-GA, c2005. 当館請求記号 (Y17-B7760)
(出版国 ロシア) 旅の好きな子豚がいました。子豚は世界を回ることにします。王様に会ったり、海賊に会ったりして、いろんな国を見て回ります・・・と、そこで子豚の夢が覚めました。子豚は眠っていたのでした。

30) Piggins and the royal wedding (ピッグインズさんと王室の結婚式) / by Jane Yolen ; illustrated by Jane Dyer. San Diego : Harcourt Brace, c1988. 当館請求記号 (Y17-A5612)
(出版国 アメリカ) この堂々たる豚・ピッグインズさんは有能な執事です。結婚式で大切な指輪がなくなりますが、ピッグインズさんの努力により見つかり、結婚式は無事に終了します。

31) Piggie pie! (子豚のパイ) / by Margie Palatini ; illustrated by Howard Fine. New York Clarion Books c1995. 当館請求記号 (Y17-A1559)
(出版国 アメリカ) 魔女のグリッチはある時、子豚のパイが食べたくなってマクドナルドさんの農場に飛んでゆきます。しかし、農場の豚たちは変装して「ここには豚はいない」と言います。最後にグリッチの前に現れたのは疲れ果てた狼で「豚は捕まえられない」と言います。疲れ果てたグリッチは方向転換して狼を食事に誘います。「狼と食事をするのは (*「狼を食べるのは」との意味もある) いつだって楽しいものさ」とつぶやきながら。

32) Qu' est-ce que tu fais, cochon? (豚くん、君はなにしているの?) / René Gouichoux, Marc Boutavant. Paris : Nathan, c2006. 当館請求記号 (Y17-B10674)
(出版国 フランス) 牧場で皆がゆったりとしている時、豚くんと犬くんが何やら話しています。それから豚くんは大忙し。みんなが「豚くん 君はなにしているの?」などという声にも応えられないくらいです。実は狼が牧場に来ることがわかっていたのです。豚くんと犬くんは変装して狼を撃退します。そしてそのあと二人は安心して釣りに行きました。

33) Pig (豚くん) / concept, Sally Grabtree, Roberta Mathieson ; illustrations, Emily Bolam. London : Campbell Books, c2000. 当館請求記号 (Y17-A8103)
(出版国 アメリカ) 木で作った豚の置物のように見えますが、赤ちゃん絵本です。朝、農場の豚が、農場の動物たちを次々に起こして回るとい話です。

34) Pro malen'kogo porosenka pli ukha (子豚のプルーハ) / I. Rumiantseva, I. Ballod ; [khudozhnik Evgeniï Medvedev]. Moskva : "Sov. Rossiia", 1975. 当館請求記号 (Y17-B1709)
(出版国 ロシア) 森のなかの藁小屋にプルーハ、トップ、シュリョップの三匹の豚の兄弟と妹豚の

ハリユが住んでいました。このプリユハと森の動物たちのさまざまな出来事を描いています。

豚と人間のいる社会

35) Small pig (こぶた) / story and pictures by Arnold Lobel. New York HarperCollins c1969.
当館請求記号 (Y17-A7552)

(出版国 アメリカ) 子豚はどろんこのなかで転げまわるのが好きです。あるとき、そのどろんこがなくなり、子豚はどろんこを求めて町へ出かけます。やっとあったどろんこ・・・と思いきや、それはコンクリートでした。子豚はコンクリート詰めになって、大騒ぎになってしまいます。

(日本語訳『どろんここぶた』当館請求記号 Y17-3637)

36) The sheep-pig (牧羊豚) / Dick King-Smith ; illustrated by Ann Kronheimer. London Puffin Books 2003.
当館請求記号 (Y8-B9090)

(出版国 イギリス) 農場主のホギットさんは、偶然、子豚を手に入れます。おいしいハムを食べられると期待していたのですが、この子豚は農場の仲間に助けられて牧羊豚として成長していきます。豚の賢さを遺憾なく描いた作品です。(日本語訳『子ブタシープピッグ』当館請求記号 Y8-8699)。著者のディック・キング=スミスは動物を主人公にした作品を多く書いていますが、豚を主人公としたものは、この他に“Lady Lollipop 当館請求記号 Y17-A7905”(日本語訳『かしこいブタのロリポップ』当館請求記号 Y9-N03-H6)があります。

37) My pig Amarillo (僕の豚アマリッロ) / Satomi Ichikawa. New York : Philomel Books, 2003.
当館請求記号 (Y18-B130)

(出版国 アメリカ) ある夏の日、お祖父ちゃんが小さな豚を僕にプレゼントしてくれました。アマリッロ(黄色)と名付けられた豚は僕の大事な友達になります。そうした日々の中である日、突然いなくなります。どこにもいません。しょんぼりする僕にお祖父ちゃんが悲しみとの折り合いの付け方を教えてください。

38) Runtle the Pig (豚のルントル) / Ulf Nilsson ; illustrated by Eva Eriksson. London Mathuen Children's Books 1982.
当館請求記号 (Y19-A603)

(出版国 イギリス) 子豚が13匹生まれました。お母さん豚の乳首は12しかなく最後の13番目の豚を育てることがありません。たまたま農場を訪れていた家族は13番目の豚をもらって育てることにします。家族のように育てられた豚は大きくなりますが、大きくなりすぎて家でもてあますようになります。ある日、豚は外にでて自然の中で暮らすようになります。心配した家族は豚を迎えに行きますが、豚は自然の中で暮らすことを選びます。

39) Charlotte's web (シャーロットの蜘蛛網) / by E.B. White ; pictures by Garth Williams. New York HarperCollins, c1980.
当館請求記号 (Y8-A258)

(出版国 アメリカ) シャーロットは知恵深い蜘蛛です。シャーロットの住んでいる農場に子豚のウィルバーがやってきました。生まれた時、殺されるはずだったウィルバーですが、この農場でも大きくなったら食べられてしまうようです。それを知ったシャーロットはウィルバーのためにさまざまな計略をめぐらせます。結局、ウィルバーの命は助かりますが、シャーロットは年をとり、蜘蛛の卵を残して死んでいきます。(日本語訳『シャーロットのおくりもの』当館請求記号 Y9-N01-33)

40) Pigs aplenty, pigs galore! (豚でいっぱい、豚だらけ!) / David McPhail. New York Dutton Children's Books 1993.
当館請求記号 (Y17-A1040)

(出版国 アメリカ) ある晩、物音で目が覚めたら豚がいっぱい。それもあらゆる種類の豚です。「ここに居させてください」という豚たちの哀願に負けて共同生活が続くことになります。

41) Mrs. Potter's pig (ポッター夫人の豚ちゃん) / Phyllis Root ; illustrated by Russell Ayto. London Walker Books 1996.
当館請求記号 (Y17-A1294)

(出版国 イギリス) ポッター夫人は完全主義者の清潔主義者。家はいつもぴかぴかです。でも、娘である赤ちゃんのエルマジーンは夫人とは正反対の乱雑屋です。ある日、ベビーカーにエルマジーンを乗せて外に散歩に出た夫人は豚小屋の前で娘と豚を取り違えて大慌て。エルマジーンは豚小屋の前の泥のなかで遊んでいました。夫人は泥だらけのエルマジーンを「わあ、あなたは幸せなちいちゃな泥豚ちゃんね」と抱きしめます。そのあともポッター夫人が清潔主義者であることは変わりません・・・でも、

あの泥のところに行くと、エルマジーンと一緒に泥まみれで遊ぶようになりました。

42) *A treeful of pigs*(木いっぱいの子豚) / Arnold Lobel ; pictures by Anita Lobel. New York Greenwillow Books c1979. 当館請求記号 (Y17-A394)

(出版国 アメリカ) お百姓さんの夫婦がたくさんの子豚を買いました。しかし、お百姓さんは怠けていて仕事をしません。「小豚が庭に咲いたら仕事をするよ」「小豚がリンゴの木になったら仕事をするよ」「小豚が空から降ってきたら仕事をするよ」と言いますが、そのたびにそれは実現してしまうのです。お百姓さんは怠けたくて「小豚なんて雪みたいに溶けてしまえばいい」と言ってしまったところ、可愛い小豚たちが姿を消してしまいます。お百姓さんは大慌て大反省して真面目に仕事をするようになります。小豚たちも無事戻ってきました。(日本語訳『りんごのきこぶたがなったら』 当館請求記号 Y17-7127)。Anita Lobel はさまざまな豚の姿を描いた *The book of piggericks* (豚についての詩の本) 当館請求記号 Y19-A169) もあります。

43) *Pippin the Christmas pig* (クリスマス豚のピピン) / by Jean Little ; illustrated by Werner Zimmermann. New York Scholastic Press 2004. 当館請求記号 (Y17-B10290)

(出版国 アメリカ) 子豚のピピンはクリスマスがどんなものなのか知らないことで、仲間の家畜たちに馬鹿にされてしまいます。小屋の外に飛び出したピピンは雪の中をさまよう赤ちゃんを連れた女の人に会います。ピピンは女の人を家畜小屋に案内します。女の人と子どもを助ける家畜たち。安らかに眠る赤ちゃん。ピピンは仲間の家畜たちに「クリスマスの贈り物をありがとう」と「君はクリスマスが何かを僕たちに教えてくれた」と言われます。

44) *Pig tale* (豚の話) / Helen Oxenbury. London Heinemann 1973. 当館請求記号 (Y17-A4312)

バーサとブリッグという名前の豚の夫婦がいました。二人にとって毎日がなにか退屈です。ある日、二人は宝の箱を見つけました。大金持ちになったのです。二人は服を、車を、家を買って新しい生活を始めます。しばらくは順調に見えた日々ですが、家の維持も車の維持もなかなか大変です・・・ある日、二人は全てを捨て、服も脱ぎ捨て草原へと戻ります。そして幸せに眠ります。

45) *(K)ein Schwein liebt mich* (どの豚も僕を愛してくれる・くれない) / Beate Dolling, Karin Lindermann. Stuttgart Wien Thienemann c2007. 当館請求記号 (Y17-B8441)

(出版国 ドイツ) 生きるってなんて楽しいんだろうという豚くんの話。しかし、「ある豚が僕を愛している」「どの豚も僕を愛してくれない」と二種類に書かれている書名はどのような意味なのでしょう。本を開いて熟読して見てください。

46) *The whistling piglet* (口笛を吹く豚) / written by Dick King-Smith ; illustrated by Norman Johnson. London : Walker Books, 1990. 当館請求記号 (Y17-A1679)

(出版国 イギリス) 10番目に生まれた子豚のヘンリーは口笛を吹くことができます。農場の他の動物たちは何かの合図と思って飛び出したりするので農場は大混乱。農場主はヘンリーを売ってしまうことにします。ヘンリーが売られる日、ヘンリーの口笛が響きます。農場の動物たちは合図の口笛と思っていっせいに農場の外に飛び出し、農場主は動物たちの連れ戻しに大わらわになります。動物たちは連れ戻されました。でも、ヘンリーはどこかに行ってしまいました。

47) *The pig in the pond* (池のなかの子豚) / written by Martin Waddell ; illustrated by Jill Barton. London Walker Books 1992. 当館請求記号 (Y17-A1615)

(出版国 イギリス) ある日、農場主のネリガンさんが町に行っている留守に豚は池のほとりに行きます。だんだん暑くなった豚はあひるたちの池に飛び込みます。バシャ、バシャと音をたてる豚に農場は大騒ぎ。動物たちは池の周りに集まり、ネリガンさんも帰ってきました。急を聞いたネリガンさんは池に飛び込みます。他の動物もみな池に飛び込みます。きっと暑い日だったんですね。

48) *Cowboy Klaus und das pupsende Pony* (カーボーイのクラウスと尻こき仔馬) / Eva Muszynski, Karsten Teich. Berlin : Tulipan Verlag, 2009. 当館請求記号 (Y17-B10979)

(出版国 ドイツ) カーボーイはカッコいいはずですが、クラウスはあまりカッコよくありません。カーボーイなのに馬を持っていないくて、かわりに豚のリサと牛のロシがいます。ある日、クラウスは仔馬を見つけました。変な仔馬ですが、やっと馬が持てると思ったのもつかの間、馬の持ち主のインディアンが現れて話は終わりました。このカーボーイ・クラウスのシリーズはドイツで大人気です。豚のリサも大活躍です。

49) Un petit cochon pendu au plafond (子豚くん、天井にぶらさがる) / Jean Maubille. Paris : École des loisirs, c2007. 当館請求記号 (Y17-B12456)

(出版国 フランス) 小豚くんが天井にぶら下がりました。いたずらっ子が足を引っ張ります。小豚くんはさらにしっかりつかまります。そしていたずらっ子にしかえしをします。

50) Pigs in the mud in the middle of the road (道の真ん中の泥だまりに豚が) / by Lynn Plourde ; illustrated by John Schoenherr. New York Blue Sky Press 1997. 当館請求記号 (Y17-A767)

(出版国 アメリカ) 車に乗って一家で出かけようとしたところ道の真ん中の泥だまりに豚たちがいて通れません。困っていると、今度は鶏たちがそれ加わり、さらに羊たち、牛たちも・・・たまりかねたお祖母さんが一喝すると動物たちは慌てて走り去り、無事、道を通ることができました。

51) The great pig search (豚くん大追跡) / Eileen Christelow. New York Clarion Books c2001. 当館請求記号 (Y17-B820)

(出版国 アメリカ) 農場を営むバートとエセルの豚が、ある時、忽然といなくなりました。二人は探しますが、あきらめてフロリダに休暇に行きます。休暇で海に行った二人は大きな魚を釣り上げ新聞に写真が載りますが、そこには豚の姿が写っています。もういちど本をめくりなおすと挿絵のあちこちにさまざまな豚たちがいることに気が付きます。追跡されていたのは豚ではなく、バートとエセルだったのでは・・・。

よく知られた豚の話 三匹の子豚

三匹の子豚は生まれた家を出て、それぞれの家建てます。一番目の子豚は藁の家を建て、訪ねてきた狼に食べられます。二番目の子豚は木の枝で家建て、狼に食べられます。三番目の子豚は煉瓦で家建て命が助かります。本来の話は一番目と二番目の子豚は狼に食べられますが、三番目の子豚のところ逃げ込んで助かるという話になっているものもあります。またさまざまなパロディ版なども出ています。

★一番目と二番目の子豚は食べられてしまう、狼は食べられる

52) The three little pigs (三匹の子豚) / retold and illustrated by Barry Moser. Boston Little, Brown c2001. 当館請求記号 (Y17-A7961)

(出版国 アメリカ) 三匹の「子豚」ということですが、とても子豚にはみえないたくましさで描かれています。

53) La véritable histoire des trois petits cochons (三匹の子豚の本当のお話) / Erik Blegvad. [Paris] : Gallimard Jeunesse, c2001. 当館請求記号 (Y17-B7311)

(出版国 フランス) 徒歩で、自転車、車で家を出ていく三匹の子豚が描かれています。

54) The three little pigs / Paul Galdone. New York : Clarion Books, c1970.

当館請求記号 (Y17-A6422)

(出版国 アメリカ) 子豚も狼もそれぞれの性格がうかがえるような生き生きとした挿絵です。

55) The three little pigs (三匹の子豚) / retold and illustrated by James Marshall. New York : Dial Books for Young Readers, c1989. 当館請求記号 (Y17-A1213)

(出版国 アメリカ) 挿絵はかなり現代的な感じになっています。

★一番目と二番目の子豚は三番目の子豚の家に逃げ込んで助かる、狼は食べられる

56) The three pigs (三匹の子豚) / David Wiesner. New York Clarion Books 2001.

当館請求記号 (Y17-A7994)

(出版国 アメリカ) マンガ風にアレンジされています。龍も登場します。2002年コルデコット賞受賞作品です。

57) Trije prasicki : angleska ljudska pravljica (三匹の子豚 : 英国民話) / v besede odela, Anja Stefan ; v barve prelila, Masa Kozjek. Ljubljana Mladinska knj. 2008 当館請求記号 (Y17-B10369)

(出版国 スロベニア) Masa Kozjek (1974～) はスロベニアの人気挿絵画家です。

58) I tre porcellini (三匹の子豚) / raccontata da Roberto Piumini ; illustrata da Nicoletta Costa
San Dorligo della Valle Edizioni EL 2009 当館請求記号 (Y17-B11824)
(出版国 イタリア) 単純な線で描かれたアニメ調の挿絵です。

★一番目と二番目の子豚は三番目の子豚の家に逃げ込んで助かる、狼はよそへ

59) 三隻小豬 (三匹の子豚) / 陽銘出版社編集部主編. 台北 : 陽銘出版社, 1990.
当館請求記号 (Y17-AZ358)
(出版国 台湾) 最後に三匹の子豚は狼を助けて森に逃がします。

60) Os três porquinhos (三匹の子豚) / recontado por Ana Maria Machado ; ilustrações de Gilles Eduar São Paulo FTD 2004 当館請求記号 (Y17-B7195)
(出版国 ブラジル) 狼が死んだのか、生きのびてどこかにいったのかは不明です。

61) Los tres cerditos (三匹の子豚) / Raquel Méndez ; ilustraciones de Helga Bansch. Pontevedra : Ogo Editora, 2008. 当館請求記号 (Y17-B11998)
(出版国 スペイン) 狼は逃げ出します。豚の家の壁には、子豚たちがお母さんのお乳を吸っている豚たちの幼い頃の写真が飾ってあるのが印象的です。

類話*狼ではなくて狐

62) The three little pigs and the fox : an Appalachian tale (三匹の子豚と狐 : アパラチアのお話) / William H. Hooks ; illustrated by S.D. Schindler. New York : Aladdin Paperbacks, 1997, c1989. 当館請求記号 (Y17-A1221)
(出版国 アメリカ) アパラチアはアメリカ東部にあります。そこに伝わっている話は、狼でなく狐になっており、二匹の子豚は狐に捕まりますが末っ子の子豚によって救われるという話になっています。

発展版・変容版

63) Os três porquinhos pobres : história (三匹の貧乏な子豚) / de Erico Verissimo ; ilustrações de Eva Furnari. São Paulo : Companhia das Letrinhas, 2003. 当館請求記号 (Y17-B7148)
(出版国 ブラジル) 他の童話の主人公らしきものも登場しています。

64) The true story of the 3 little pigs (「三匹の子豚」の本当の話) / by A. Wolf ; as told to Jon Scieszka ; illustrated by Lane Smith. New York Viking, 1989. 当館請求記号 (Y17-A1226)
「三匹の子豚」で二匹を食べてしまい、いまは刑務所に入っている「凶悪な狼」が実際には何が起きたのかを告白しています。心優しい狼は、おばあさんの誕生日にケーキを焼こうとした時、砂糖が足りないのに気付く、隣人の子豚たちに砂糖を借りに行きます。その際、いろんな偶然が重なりあつた事件が起きてしまったのです。(日本語訳『三びきのコブタのほんとうの話 : A.ウルフ談』 当館請求記号 Y18-6129)

65) There' s a wolf at the door (戸口に狼が) / by Zoë B. Alley ; pictures by R.W. Alley. New York : Roaring Brook Press, 2008 当館請求記号 (Y16-B249)
(出版国 アメリカ) 「三匹の子豚」「狼だ、と叫んだ少年」「赤ずきん」「羊の皮をかぶった狼」「狼と七匹の子やぎ」など狼がいろいろなものを食べるという民話が連作になっています。いずれも狼は獲物を食べることができず最後は「肉食主義者になるか」とつぶやきます。

66) The three little wolves and the big bad pig (三匹の子狼と大きな悪い豚) / Eugene Trivizas ; illustrated by Helen Oxenbury. New York Aladdin Paperbacks c1993. 当館請求記号 (Y17-A1229)
(出版国 アメリカ) 三匹の黒、灰色、白の子狼は母親の家を出て自立することになります。黒狼は煉瓦の家を建てますが、悪い豚に槌で壊されます。灰色狼はコンクリートの家を建てますが、ドリルで壊されます。白い狼は鉄筋・鉄条網の家を建てますがダイナマイトで爆破されます。どうにも仕方がなくなった三匹は木の家を建てます。誰でも来られるような開かれた木の家。そこへあの豚さんが訪ねてきて、三匹の狼と豚は仲良しになることができました。(日本語訳『3びきのかわいいオオカミ』 当館請求記号 Y18-9093)

